

平成 30 年 6 月 7 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K01917

研究課題名(和文) 国際的廃娼運動がとらえた帝国日本の人身売買 東アジアにおける位置づけの検討

研究課題名(英文) The Problem of Trafficking in Women in the Empire of Japan Seen by International Activists against Licensed Prostitution from a Perspective of East Asian History

研究代表者

林 葉子 (HAYASHI, Yoko)

大阪大学・文学研究科・招へい研究員

研究者番号：60613982

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、主に日清・日露戦争期の帝国日本における人身売買の実態について調査し、その原因としての近代公娼制度の形成過程を明らかにした。また、国際的な廃娼運動団体が、日本の公娼制度の存廃問題に、どのように介入し、当時の日本社会にいかなる変化をもたらしたのかを明らかにした。それらの研究成果は、単著(林葉子『性を管理する帝国 - 公娼制度下の「衛生」問題と廃娼運動』大阪大学出版会、2017年)および、共編著(林葉子・青木直子(編)『開く日本・閉じる日本 - 「人間移動学」事始め』大阪大学文学研究科、2017年)にまとめた。

研究成果の概要(英文)：In this study, I researched the reality of trafficking in women in the Empire of Japan in the Sino-Japanese/Russo-Japanese wars era. I revealed the formation process of Japanese modern licensed prostitution system which was the biggest source of the problem of trafficking in women in Japan at that time. I also made it clear how international activist groups got involved in the discussion whether to maintain the licensed prostitution system in Japan, and how the international anti-prostitution movements changed Japanese society.

As the study results, I published a book titled "Sei o Kanri suru Teikoku: Kosho Seido-ka no "Eisei" Mondai to Haisho Undo (Management of Sexuality for Imperial Expansion: "Hygiene" Issues under the State-regulated Licensed Prostitution System and the Movements against It)", Osaka University Press, 2017, and I compiled a book titled "Open Japan Closed Japan: Towards Interdisciplinary Studies in Human Mobility", Osaka University Faculty of Literature, 2017.

研究分野：ジェンダー史

キーワード：人身売買 検徴 近代公娼制度 廃娼運動 娼妓 自由廃業運動 日清戦争 日露戦争

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

19世紀半ばから、日本人女性の売買とそれを阻止しようとした廃娼運動は、国境を越えて広がっていったが、その実態についての研究は、進んでいなかった。

また、先行研究においては、帝国日本の人身売買が世界的に注目され始めた19世紀末から1920年頃までの時期に、どのような国際関係のもとで日本の廃娼運動が形成されていったのかという点について、明らかにされてこなかった。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、国際的な廃娼運動諸団体が、どのように帝国日本の公娼制度存廃問題に関与し、日本社会にいかなる変化をもたらしたかを明らかにするものである。欧米において廃娼によるアジアの文明化という観点から日本をアジアのリーダーと位置付ける戦略が立てられていく中で、国際誌における日本での買売春や人身売買問題についての論じ方と、日本のローカルな現地レポートとの間に生じていたギャップについて具体的に検証する。

(2) 国際的廃娼運動の対アジア戦略における日本と中国の論じられ方の違いにも着目し、アジア諸国をランク付けする欧米の視線と、日本での帝国意識の生成との関連についても考察する。

3. 研究の方法

本研究の方法は、イギリスおよびアメリカで発行された国際的廃娼運動関連団体の機関紙（*War Cry*, *All the World*, *Union Signal* 等）に掲載された日本における買売春および人身売買についての記事の内容と、日本や中国における現地側の記録を照らし合わせて比較・検証することである。

そのため、主に下記の図書館、史料館、文書館で史料調査を実施した。中国語文献・史料については、連携研究者である王蘭氏からの助言を得た。

大英図書館（イギリス・ロンドン）

The Salvation Army International Heritage Centre（イギリス・ロンドン）

Wellcome Library（イギリス・ロンドン）

帝国戦争博物館（イギリス・ロンドン）

LSE 図書館・Women's Library（イギリス・ロンドン）

ワシントン大学図書館（アメリカ・シアトル）

香港公文書館（中国・香港）

北京大学図書館（中国・北京）

上海図書館（中国・上海）

北海道立文書館

旭川中央図書館

ピアソン記念館（北海道・北見）

群馬県立文書館

横浜開港資料館

名古屋市鶴舞中央図書館

兵庫県公館県政資料館

神戸市文書館

和歌山県立文書館

広島県立文書館

長崎県立長崎図書館

長崎大学附属図書館

4. 研究成果

本研究の成果は、主に、単著（林葉子『性を管理する帝国 - 公娼制度下の「衛生」問題と廃娼運動』大阪大学出版会、2017年、以下『性を管理する帝国』と略記）および、共編著（林葉子・青木直子（編）『開く日本・閉じる日本 - 「人間移動学」事始め』大阪大学文学研究科、2017年）にまとめ、下記のことを明らかにした。

(1) 『性を管理する帝国』第1章では、日本の近代公娼制度が、開港地において、外国の軍隊（特にイギリス・ロシア）の要請によって導入された経緯や、廃娼論との関係について明らかにした。

この第1章に関連して、本研究では、横浜開港資料館、北海道立文書館、兵庫県公館県政資料館、神戸市文書館、長崎県立長崎図書館、長崎大学附属図書館での史料調査を行い、写真史料を含め、開港地での遊廓や検査（性病検査）の実態についての史料を入手することができた。写真史料の一部については、『性を管理する帝国』第1章の図版として用いた。

(2) 『性を管理する帝国』第3章では、すでに日清戦争期から、日本人による買売春や人身売買が国際的な規模で社会問題化されていたことを具体的に示した。同章では、日本人女性による「密売淫」の実態と、その取り締まりの法制度の変遷について明らかにした。

特に、軍都であった広島は、日清戦争期から日本軍の兵士による性的トラブルが頻発する場として当時の人々の注目を集めていたことに着目し、本研究では、広島県立文書館での史料調査を実施した。

その結果、日清・日露戦争期の広島における、軍隊関係者による買春の問題および性病対策についての史料を入手することができた。

それらの史料に基づき、『性を管理する帝国』第3章では、当時の日本軍による兵士の性管理の実態について、部分的に明らかにし得た。

香港公文書館における調査では、イギリス帝国による香港での性病管理についての史料を入手し、帝国日本の性病対策との比較の観点から参照した。

(3) 『性を管理する帝国』第5章では、日本における自由廃業運動に、アメリカ人宣教師であるユリシーズ・グラント・マーフィー（モルフィ）や、イギリスを拠点に世界的な宣教活動をしていた救世軍が強い影響を与えたことを明らかにした。また、そのような国際的廃娼運動の介入の結果として、日本の遊廓での娼妓虐待が全国の新聞を介して国民に広く知られることになったことや、遊廓の在り方が大きく変化したことを明らかにした。

ユリシーズ・グラント・マーフィーについては、ワシントン大学図書館で関連史料を入手、参照した。マーフィーが最初に自由廃業の法廷闘争を始めた名古屋については、同地の遊廓の実態について、名古屋市鶴舞中央図書館で史料調査を実施し、入手した史料に基づき、自由廃業運動がどのように当時の地域社会を変容させたかを『性を管理する帝国』第5章で明らかにした。

救世軍については、The Salvation Army International Heritage Centre で史料を得た。また、当時の英米における廃娼運動の社会的背景について知るため、大英図書館、Wellcome Library、LSE 図書館での調査を実施し、そこで得た知見については、『性を管理する帝国』第5章の内容に反映させた。

(4) 『性を管理する帝国』第7章では、日露戦争期の「内地」における遊廓増設問題と、満洲の占領地への公娼制度の拡大について論じた。

この『性を管理する帝国』第7章に関連して、本研究では、当時の廃娼県であった群馬と和歌山、矯風会の廃娼運動の拠点であった旭川に特に着目し、北海道立文書館、旭川中央図書館、ピアソン記念館、群馬県立文書館、和歌山県立文書館で史料調査を行った。

同時期の満洲での廃娼運動については、本研究の The Salvation Army International Heritage Centre での調査結果を踏まえて、大阪大学文学研究科主催のグローバル日本研究国際シンポジウム「開く日本・閉じる日本 「人間移動学」事始め」(2016年3月23-24日)にて、「満洲へ渡った女性たち 日露戦争後の国際的「婦人救済」活動とその背景」と題する研究発表を行った。その内容については『性を管理する帝国』第7章にまとめて公刊した。さらに、その『性を管理する帝国』第7章と第3章の一部を併せて再構成し、林葉子・青木直子(編)『開く日本・閉じる日本 - 「人間移動学」事始め』(大阪大学文学研究科発行、2017年)に、「日露戦争後の満洲における国際的「婦人救済」運動とその背景」と題する論文を掲載した。

中国での廃娼運動の展開については、北京大学図書館で連携研究者の王蘭氏が史料調査を行って中華婦女節制協会の機関紙を

入手し、中国における矯風会活動の展開という観点から、その内容を参照した。

(5) 『性を管理する帝国』の刊行後、生政治とマイノリティ研究会(部落解放・人権研究所)で、「近代日本の遊廓のイメージと貧者に対する差別」と題し、本研究の成果の一部を発表した。また、アメリカ・ニューヨークのホフストラ大学で開催されたバークシャー女性史学会(Berkshire Conference, June 1-4, 2017)で、“International Emancipation Movements for Japanese Prostitutes around 1900”と題する研究発表を行った。

本研究を広く「社会・国民に発信する方法」の一環として、一般公開の講演を3回実施した(京都自由大学一般公開講座、大阪大学経営企画オフィス URA 部門主催「二頁だけの読書会 vol.9」、大阪大学経営企画オフィス URA 部門と筑波大学人文社会国際比較研究機構(ICR)の共同開催「二頁だけの読書会 vol.10」)。

また、本研究を、より広い視野から捉え直すため、本研究に関連する研究課題に取り組む研究会を共催して、ディスカッサントとして参加した(「近代における女性を中心とした「移動/異動」の力学とその表象」研究会)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計4件)

林葉子「近代日本の遊廓のイメージと貧者に対する差別」部落解放・人権研究所・第一研究部門・第1回生政治とマイノリティ研究会(於: しんらん交流館(京都・東本願寺教化センター))2017年

Yoko HAYASHI, “International Emancipation Movements for Japanese Prostitutes around 1900”, Berkshire Conference 2017, Hofstra University, Hempstead NY (USA), 2017

林葉子「満洲へ渡った女性たち 日露戦争後の国際的「婦人救済」活動とその背景」グローバル日本研究国際シンポジウム「開く日本・閉じる日本 「人間移動学」事始め」大阪大学文学研究科主催、2016年

林葉子「「軍隊衛生」と廃娼運動-日露戦争後の兵営と遊廓の増設をめぐる抗争」比較ジェンダー史研究会関西支部(於: 奈良女子大学)2016年

〔図書〕(計2件)

林葉子、大阪大学出版会、『性を管理する帝国 - 公娼制度下の「衛生」問題と娼婦運動』、2017年、556ページ

林葉子・青木直子（編）、大阪大学文学研究科、『開く日本・閉じる日本 - 「人間移動学」事始め』、2017年、96ページ、インターネットで公開

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/~symposia/osaka2016/OpenJapanClosedJapan.pdf>

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

取得状況（計0件）

〔その他〕

公開講座「「あなた」と「私」を結ぶもの—新たな人のつながりを生み出す 経験の継承 を考える」での林葉子の共同講演（二頁だけの読書会 vol.10（大阪大学・筑波大学コラボによる特別編）、主催：大阪大学経営企画オフィス URA 部門、筑波大学人文社会国際比較研究機構（ICR）、筑波大学 URA 研究戦略推進室、共催：大阪大学出版会、株式会社りそな銀行、協力：大阪大学クリエイティブユニット）

日程：2017年12月8日

場所：筑波大学東京キャンパス

公開講座における講演

林葉子「性を管理する帝国—なぜ近代公娼制度は長く存続したのか—」

（二頁だけの読書会 vol.9、主催：大阪大学経営企画オフィス URA 部門、共催：大阪大学出版会、株式会社りそな銀行、協力：大阪大学クリエイティブユニット、大阪大学 21 世紀懐徳堂）

日程：2017年9月9日

場所：りそな銀行梅田支店 プライベートサロン Re ラグゼ セミナールーム

公開講座における講演

林葉子「買売春と性暴力の間—歴史から見えてくること」（京都自由大学一般公開講座）

日程：2017年6月9日

場所：京都社会文化センター

「近代における女性を中心とした「移動／異動」の力学とその表象」研究会の共催、および林葉子のディスカッサントとしての参加

日程：2017年3月4日

場所：大阪大学文学研究科中庭会議室

研究代表者：小橋玲治

6. 研究組織

(1) 研究代表者

林 葉子（HAYASHI, Yoko）

大阪大学・文学研究科・招へい研究員

研究者番号：60613982

(2) 連携研究者

王 蘭（WANG, Lan）

佛敎大学・公私立大学の部局等・非常勤講師

研究者番号：10725659